

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 藻利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>現在は、ストック・オプション (Stock Options; SO) に関する会計問題について検討を行っている。この会計問題は、SOを権利行使すれば、株式が交付される。そのため、SOの会計処理を検討する際には、労働サービスの費消に伴う費用認識だけでなく、会計上の資本と利益に関する問題も生じることなどから、財務会計領域のなかでも、難易度の高い会計処理のひとつである。</p> <p>(1) 2013年に公表された「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」では、負債と資本の区分について、負債性金融商品だけでなく、資本性金融商品についても株価等の変動にあわせて每期再測定し、その測定差額を資本の内訳として再分類するという新たな分類・計上方法が検討されている。その新たな分類・計上方法は、財務報告の目的にてらすと容認されうるのかという点について、検討を行った。</p> <p>そして、この検討の結果を、2014年12月に高知工科大学で開催された監査理論研究会で発表した。本稿は、さらなるブラッシュアップのうへで、辻山栄子編著『国際財務報告基準 (IFRS) の理論的分析』の第6章として掲載される予定である。</p> <p>(2) 2012年に公表した拙稿『株式報酬費用の未費消分に関する会計処理』（『早稲田商学』第433号）では、SOに関する会計処理のうち、付与日に測定された費用総額のうち、費用の未費消分をどのように処理すべきであるかについて検討を行った。この検討は、1993年に公表された米国財務会計基準書第123号公開草案に書かれている内容をベースにして会計処理を導出したものであった。</p> <p>しかし、その後、この拙稿を公表し学外の先生方からご指導を賜ったところ、2012年に公表した拙稿に基づく会計処理の説明は、必ずしも必然ではないことがわかった。その一方、この見解の相違は、費用の未費消分に関する表層的な問題に終始するものではなく、日米における会計上の資本と利益に関する考え方の違いに起因しているようにも見受けられる。そのため、現在、会計上の資本と利益についても絡めながら、株式報酬費用の未費消分について、再検討を行っている。</p> <p>この検討の結果は、来年度、本学の紀要に掲載する予定である。</p> <p>(3) 高崎経済大学経済学会の第1回研究会（コメンテーター：水口剛教授）において、学部時代から現在に至るまでの研究経緯と、今後の研究構想に関する報告を行った。財務会計以外を専攻されている先生方がいらっしゃることを想定して、財務会計研究全体と自身の研究との関係を示したり、会計専門単語を極力使わないようにしたりと、説明を工夫した。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義：財務会計Ⅰ・Ⅱおよび上級簿記 <p>会計・ファイナンス専攻の学生だけでなく多くの学生に会計に関心を持ってもらうべく、飯野利夫. 1993.『財務会計論（三訂版）』. 同文館. に記載されている、G-B-Gの図を用いて、企業活動と会計との関係や、財務諸表作成のための基本概念（発生・実現・</p>	

対応・資本と利益)に常に気をつけながら、現行の会計基準の説明を行った。特に、スライドについては、授業評価アンケートや周囲の学生によれば、好評のようである。

上級簿記についても、説明している取引が視覚的にわかりやすくなるよう、注意を払いながらスライドを作成し、説明を行った。

- ゼミ (基礎演習)

- ① 財務諸表作成のための基本概念 (発生・実現・対応・資本と利益) について教えたうえで、
- ② 実際の財務諸表にどのようなことが記載されているか、それらが企業の経営 (戦略) 等とどのような関係を有しているかを理解してもらうため、慶應ビジネススクールの教材を使用し企業分析したうえで、ディベートやディスカッションを行った。

2 その他の事項

- 会計・ファイナンス書籍の選書 (40万円分)
- 出張講義 (長野県野沢南高等学校)
- ゼミナール協議会主催 プレゼンテーション大会 審査委員
- ラジオ高崎 ラジオゼミナール 出演
- 『高崎経済大学論集』 査読 ほか

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- 「1 重要事項」の【研究活動】に記載した内容を行ったうえで、可能な限りで、学部時代から現在に至るまでの研究を、学位論文として取りまとめる予定である。

【教育活動】

- 講義：財務会計Ⅰ・Ⅱおよび上級簿記
 - 財務会計Ⅰ・Ⅱ：斎藤静樹. 2014.『企業会計入門—考えて学ぶ』. 有斐閣. を用いて、スライドのさらなるブラッシュアップを図る。
 - 上級簿記：昨年の検定試験対策志向の授業から、財務諸表作成までの計算構造を教える授業に切り替えるために、安平昭二. 2007.『簿記要論 (六訂版)』. 同文館.等を用いて、鋭意、勉強中である。

- ゼミ

2年生については、昨年度と同様の教育を行う。また、3年生については、連結財務諸表ベースの財務会計の理論とその分析方法を学んだうえで、後期に、学内のプレゼンテーション大会に参加したうえで、明治学院大学・國學院大學・跡見学園女子大学とのインターゼミに臨む予定である。

- その他

昨年度は、スライドをポータルサイトで配布していたが、ホームページを開設した。来年度は、そこでスライドを配布する予定である。(パスワードを設定する予定。)